

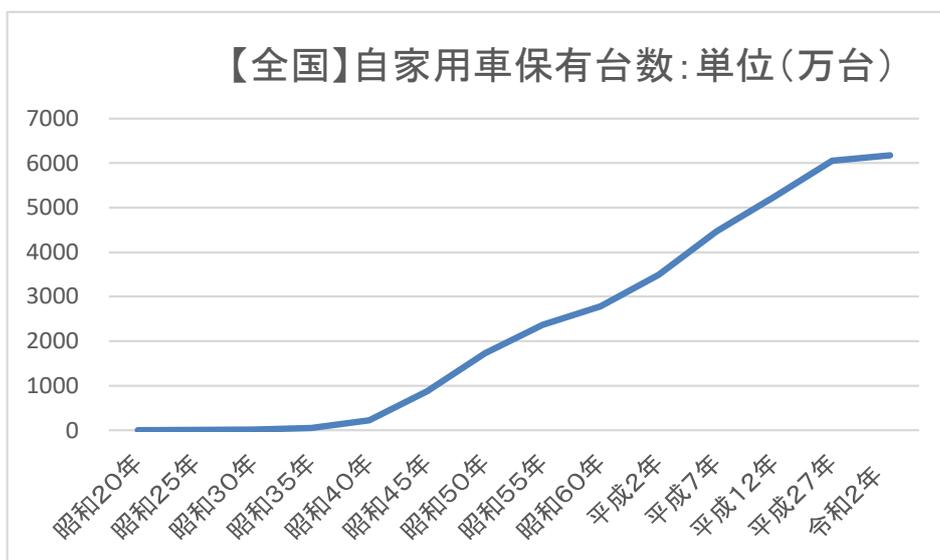
【富士宮市の公共交通の現状】

本市の公共交通を取り巻く環境は、年々厳しいものになっており、市内の民間路線バスでは、昭和55年には16,111人あった1日当たりの平均乗車人数が、令和3年には934人に、同様に87あった路線も19路線にまで落ち込み、これまでに路線の廃止や減便の受け入れを余儀なくされてきました。

こうした背景には、人口減少や事業者の収益の悪化など様々な事由があげられますが、特に、高度経済成長以降、多くの人々が運転免許や自家用車を保有するようになり、好きな時に好きな場所へ移動できるマイカー中心の生活に移行したことが、大きく影響しています。

1 日本の自動車保有台数の推移

出展：(財)自動車検査登録情報協会



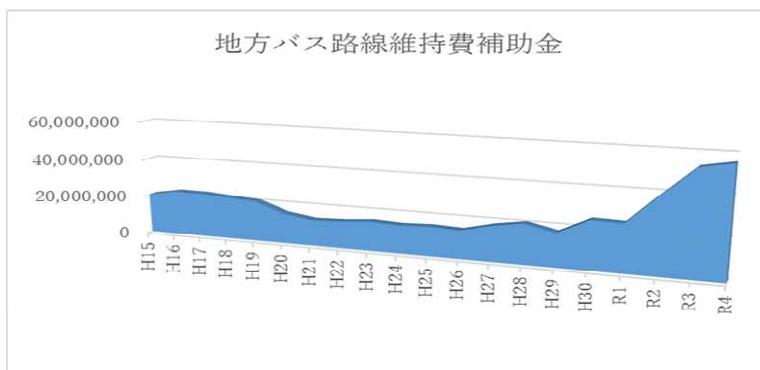
高度経済成長以降、所得の向上と連動し、急速に車社会が発展しました。地方都市では成人の移動手段の中心が自家用車となり、世帯で複数の自家用車を保有することは珍しくない状況になっています。

2 利用状況（市内民間路線バス）



利用者数の推移は、ピークであるS40年代からH15にかけて著しく減少しました。近年、民間路線バスの利用者は緩やかに減少していますが、H15と比較してR3は約6分の1に減少しています。

### 3 補助金の推移



市内を運行するバス路線は、運行経費の増大により、赤字が膨らんでいます。このため市では、地域の生活交通を支える路線バス運行事業者に対し、運行欠損額の補助を行い、地域内を運行するバス路線の維持を図っています。

令和2年度からは、コロナ禍の影響や燃料の高騰などにより運行欠損が嵩み補助金額が大幅に上昇しています。

### 4 宮バス・宮タク利用者

